

研究発表会開催通知

(平成元年4月15日～5月31日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	5月11日(木)	13:30～17:00	JPDEC	下記参照
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	5月12日(金)	15:00～17:00	機械振興会館	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5月12日(金)	13:30～16:30	東 大	同 上
ヒ ュ ー マ ン イ ン タ フ ェ ー ス	5月15日(月)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
情 報 シ ス テ ム	5月15日(月)	13:30～17:00	同 上	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ と ワ ー ク ス テ ー シ ョ ン	5月16日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5月18日(木)	10:30～17:00	情 報 大	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5月18日(木)	13:00～18:00	豊橋技科大	同 上
知 識 工 学 と 人 工 知 能	5月18日(木) 5月19日(金)	13:00～17:00 13:00～17:00	機械振興会館	同 上
自 然 言 語 処 理	5月19日(金)	9:30～17:00	三田国際ビル アネックス	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5月19日(金)	9:00～17:30	NTTプラザ 松山	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 基 礎 論	5月18日(木) 5月19日(金)	13:00～17:00 9:00～12:00	豊橋技科大	同 上
人 文 科 学 と コ ン ピ ュ ー タ	5月19日(金)	10:00～17:00	国立民族学 博物館	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	5月22日(月)	13:30～16:50	機械振興会館	同 上
設 計 自 動 化	5月23日(火)	13:00～16:30	同 上	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5月30日(火)	13:30～17:00	同 上	同 上

◆ 第5回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 有山正孝, 幹事: 雨宮幸雄, 大槻説乎, 竹谷 誠)

日 時 平成元年5月11日(木) 13:30～17:00

会 場 日本情報処理開発協会 情報教育研究所 第5会議室

〔東京都港区浜松町 2-4-1, 世界貿易センタービル7階, JR: 浜松町下車, 徒歩3分. Tel. 03 (435) 6511〕

議 題

(1) 情報科学教育とコンピュータの利用

井野敏夫 (元英知大)

〔概要〕 本報告は4年制文科系大学教養課程の情報処理教育のために採択されたコンピュータシステムにつき述べる。

(2) 情報化社会と入試制度の変化の新入生への影響

松原 勇 (金沢経済大), 高尾テルノ (富山大)

〔概要〕 富山大学一年次に対する調査結果の年次変化と情報化社会の中での入試制度の変化との関連を統計的に考察する。

(3) 教育とコンピュータに関する試論

古閑 政 (群馬情報電子専門学校)

〔概要〕 教育現場の問題点, 技術, 生徒の可能性を論評し, コンピュータがどんな役割を持ち得るかを原点から検討した。

(4) 日本語学習者のための待遇表現運用学習システム

小鶴康浩 (日本 IBM)

〔概要〕 日本語学習者のための待遇表現運用学習システムを構築している。設計方針とプロトタイプについて述べる。

(5) バギーモデルと効率のよい推論計算

福田章夫, 徳田尚之 (宇都宮大)

〔概要〕 修復理論で生成した減算バグの階層性を利用した効率のよい Dempster-Shafer の推論計算の結果を報告する。

◆ 第 68 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 3 件)

(主査: 田中英彦, 幹事: 喜連川優, 長谷川隆三, 横田 実)

日 時 平成元年 5 月 12 日 (金) 15:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, JR: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 渋谷-東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車. Tel. 03 (434) 8211〕

議 題

(1) 並列推論マシン PIE 64 の相互結合網の作成と評価

高橋栄一 (東大)

〔概要〕 PIE 64 の相互結合網の詳細とその作成後の評価について報告する。

(2) 逐次型推論マシン CHI-II の性能評価

幅田伸一 (日電)

〔概要〕 CHI-II の特徴および性能評価結果を報告する。評価では Sun 4 上の Auintus と比較し, RISC と CICS という点に着目する。

(3) 大規模セルラアレイプロセッサ: AAP 2

渡辺琢美 (NTT LSI 研)

〔概要〕 AAP 2 のシステム構成, 基本性能, 各種アプリケーションについて述べる。

* IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第 38 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 宇野 栄, 中嶋正之, 守屋慎次)

日 時 平成元年 5 月 12 日 (金) 13:30~16:30

会 場 東京大学 教養学部 1 号館 3 階 184 番教室

〔東京都目黒区駒場 3-8-1, 井の頭線 (京王): 駒場東大前 (東口) 下車, 時計台の建物, 正面から見て左後ろ隅の階段登る. Tel. 03 (467) 1171 ex. 444〕

議 題

(1) カラー画像の限定色表示への視覚特性の利用

田島譲二, 池田 徹 (日電)

〔概要〕 カラー画像の色数を限定色数まで高画質のまま減らすための, 視覚特性を考慮したアルゴリズムを提案する。

(2) 線分近似表現から 3 次ベジェ曲線表現への変換手法

山田啓一, 佐藤文孝 (東芝)

〔概要〕 線分近似表現された形状を, CG や輪郭線フォントに用いられる 3 次ベジェ曲線表現に変換する手法を発表する。

(3) 生体計測用自由形状処理システム 長島 忍, 鈴木賢次郎, 永野三郎 (東大), 堤江美子 (大妻女子大)

〔概要〕 人体体幹部などの形状解析を行うために, モアレ写真から自由曲面モデルを生成するシステムについて報告する。

(4) 「グラフィクスと CAD」文献データベースについて

川合 慧 (東大), 西原清一 (筑波大), 福井幸男 (製科研), 白石 博 (富士通)
中嶋正之 (東工大), 守屋慎次 (電機大)

〔概要〕 昭和 63 年 1 月から 12 月までに発表されたグラフィクスと CAD の関連文献について報告する。

◆ 第 24 回 ヒューマンインタフェース研究会 (文書処理とヒューマンインタフェース)

(発表件数: 4 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 角田博保, 黒須正明, 小橋史彦)

日 時 平成元年 5 月 15 日 (月) 13:00~17:00
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
議 題

(1) 知識メディアステーションにおけるハイパメディアの実現

炭田昌人, 熊谷秀光, 瀧口伸雄 (三菱電機)

〔概要〕 問題解決環境上での利用を目指したハイパメディアとブラウザの特徴, およびその実現について述べる。

(2) 臨場感通信のためのヒューマンインタフェース

伴野 明, 小林幸雄, 山下紘一 (ATR)

〔概要〕 電気通信の究極のねらいである臨場感通信の構想について述べ, これに必要な個別 HI 技術について紹介する。

(3) 日本文入力方式の習得に関する一実験

木村 泉 (東工大)

〔概要〕 SKY, OASYS, JIS カナの 3 種を未経験者各 1 名に, 実作業の中で 100 時間にわたって練習させた経過を解析, 討論する。

(4) どの入力法を選ぶべきか

岡留 剛 (NTT 通研)

〔概要〕 現在最も普及している三つの日本文入力法について, 心理実験を行い, 作業能率や作業負荷について検討を行う。

◆ 第 24 回 情報システム研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 鷹野 澄, 槻木公一, 西原良一)

日 時 平成元年 5 月 15 日 (月) 13:30~17:00
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集: マスコミ業界の情報システム — 出版・新聞・放送におけるシステムの現状と問題点—

(1) 新聞製作システム「ANNECS」

杉田善孝 (日本経済新聞社)

〔概要〕 「ANNECS」の開発過程を, 開発初期から今日まで 3 期に分けて説明し, 新聞製作システムの今後の課題について論ずる。

(2) 出版社における教育関連システム

森 瑞穂 (福武書店)

〔概要〕 教育機材, 教育情報サービス, ダイレクトメール等教育を主体とした出版産業におけるシステム化の事例と将来について述べる。

(3) 共同通信社「高速デジタル写真伝送システム」

飯塚邦彦 (日電)

〔概要〕 国内外のニュース写真を高速デジタル回線を使って加盟・契約社側の受信端末に伝送するシステム。

(4) NHK 新ニュースセンター・システム

渡辺 博 (日本放送協会)

〔概要〕 今年 2 月に全面運用を開始した NHK 新ニュースセンターにおける原稿の出稿・編集, 番組の製作・送出を支える総合システムを論ずる。

◆ 第 55 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 若鳥陸夫, 幹事: 氷治義弘, 森本陽二郎, 山田 剛)

日 時 平成元年 5 月 16 日 (火) 13:30~17:00
会 場 機械振興会館 地下 3 階 9 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 知的作業支援データベースシステムの開発

関口幸一 (東芝総研)

〔概要〕 日本語プログラム言語と多様なデータを扱う DBMS を統合した、知的作業支援システムについて述べる。

(2) 「鼎」における複合文書データ混在方式

暦本純一, 山崎 剛, 猪狩錦光 (日電)

〔概要〕 構造を持った図・表・テキストなどをひとつの文書中に混在させ、表示・編集・蓄積する方式について述べる。

(3) THEOS 利用環境下における OS としてのヒューマンインタフェース

高木 修, 市川由紀夫 (シオスジャパン)

〔概要〕 THEOS 利用環境下におけるヒューマンインタフェースと OS の機能について述べる。

(4) 図の記述機能を持つオブジェクト指向言語システム

田代秀一, 岡田義邦 (電総研)

〔概要〕 テキスト記述と図の記述を組合せてプログラムを行えるプログラム開発環境について述べる。

(5) 言語変換系 CPS—ワープロからポストスクリプトへ

若鳥陸夫 (日本ユニシス)

〔概要〕 ワードプロセッサ出力をポストスクリプト言語へ交換する処理系を情報交換用符号で構成してみたので報告する。

◆ 第71回 データベース・システム研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 牧之内顕文, 幹事: 大里博志, 清木 康, 佐藤和洋)

日 時 平成元年5月18日(木) 10:30~17:00

会 場 図書館情報大学 大会議室

〔つくば市春日 1-2, JR: 東京〔八重洲(南口)〕下車, 常磐高速バス: 終点つくばセンター下車 (所要時間約 60 分), 図書館情報大学まで徒歩数分, JR: (常磐線) 荒川沖下車 (上野より約 60 分), 東口より関東鉄道, 筑波大中央行きバスに乗り, 図書館情報大学前下車 (所要時間約 30 分). Tel. 0298 (52) 0511 ex. 340〕

—10:30~12:30—

議 題 一般講演 (2 件)

(1) 動的配列シリンダディスク上のデータモデル

岡本正昭 (大阪ガス), 石井博昭 (阪大)

〔概要〕 2 次記憶内のデータを参照頻度別にわずかのグループに分類・再配置するだけで、容易にアクセス性能が向上する。

(2) 欧米における最近のデータベース研究開発事情

増永良文 (情報大)

〔概要〕 88 年春から暮まで 10 カ月間の米国および西ドイツ滞在中に見聞した欧米のデータベース研究・開発事情を述べる。

小特集: 標準 SQL (ISO DB 規格への日本の貢献) (6 件)

(3) データベース言語規格 SQL, SQL 2, SQL 3 の開発

芝野耕司 (日本 IBM)

〔概要〕 データベース言語規格の開発方針, 概要及び日本からの貢献について述べる。

—13:30~17:00—

(4) 日本語サポートと正規表現

平沼雄一郎 (沖電気), 芝野耕司 (日本 IBM)

〔概要〕 SQL の文字表現の拡張として導入された日本語データと正規表現について述べる。

(5) SQL 3 におけるカーソル/ビュー更新規則

麦谷尊雄 (日電), 寺田克則 (東芝)

〔概要〕 SQL 3 で緩和されるカーソル/ビュー更新規則の基本的考え方および具体的な更新ルールについて述べる。

(6) 動的 SQL におけるインタフェース

附田克晃 (日立 SK), 大里博志 (富士通)

〔概要〕 動的 SQL のインタフェースの検討経過とそこで提案された各種インタフェースについて述べる。

(7) SQL によるデータの意味のサポート

遠山元道 (慶大), 村田達彦 (NTT 情報研), 藤井宏公 (リコー)

〔概要〕 SQL において、データ間の意味を表現可能とするための汎化, 専化機能等の導入について述べる。

- (8) 再帰的 UNION 芝野耕司 (日本 IBM), 林田定一 (アスキー), 佐藤明子 (三菱電機)
 [概要] SQL 言語で木構造やネットワーク構造のデータを簡単に扱えるように, 再帰的な問合せ (UNION) 機能を導入した。

◆ 第 60 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 鳥脇純一郎, 幹事: 大田友一, 田島譲二)

日 時 平成元年 5 月 18 日 (木) 13:00~18:00

会 場 豊橋技術科学大学 技術開発センター 3 階 セミナー室

[豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1, JR: 豊橋下車, (細谷線) 3 番乗場から豊鉄バス: (細谷東行又は技科大行に乗車) 技科大前下車, 所用時間約 25 分. Tel. 0532 (47) 0111]

議 題

- (1) マラソン放送における画像処理システムの適用

並川 巖, 宮本仁志 (関西テレビ放送), 古明地正俊, 直井 聡 (富士通研)

[概要] マラソン放送の映像から動画画像処理プロセッサを用いて走者のピッチ計測を行う手法とシステムを報告する。

- (2) コンピュータ・グラフィックスにおける布地の反射モデルに関する研究

鈴木克知, 安田孝美, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大)

[概要] コンピュータ・グラフィックスにおける布地の質感を表現するための光の反射モデルを検討した。

- (3) 自律移動ロボットの沿目標移動について

中井正幸, 森 英雄 (山梨大)

[概要] 屋外自律移動ロボット晴信の沿目標移動におけるサインパターン抽出, 追跡等の画像処理について報告する。

- (4) 画像処理エキスパートシステム IMPRESS におけるゴール転換機能について

深見幸靖 (名大), 長谷川純一 (中京大), 鳥脇純一郎 (名大)

[概要] 画像処理エキスパートシステム IMPRESS において, 面一線間のゴール転換機能の可能性について述べる。

- (5) 胃の 2 次元モデルによる X 線像の胃領域形状の予測

喜多泰代 (電総研)

[概要] 柔軟性のある胃の鉛直断面モデルを作成し, X 線像の胃領域形状を予測する手法について述べる。

- (6) 多値 M 配列パターン投影法を用いた 3 次元物体形状の再構成と識別

森田啓義, 佐藤昌彦, 古賀勝敏, 阪田省二郎, 北川 孟 (豊橋技科大)

[概要] 多値 M 配列パターン投影法を用いて, 物体表面形状を再構成し, 物体を分離識別する方法と問題点を扱う。

—17:15~18:00(見学)—

- (7) パターン認識関係研究室

* 終了後, 電子情報通信学会 (パターン認識と理解研究会) と合同で懇親会を行います。

◆ 第 64 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 諏訪 基, 幹事: 中島秀之, 西田豊明, 原口 誠)

日 時 平成元年 5 月 18 日 (木) 13:00~17:00

5 月 19 日 (金) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

5 月 18 日 (木) 13:00~17:00 (4 件)

議 題

- (1) PS 並列化の速度向上評価と負荷均等化粗粒度方式の提案

湯川高志, 松澤和光, 石川 勉 (NTT 通研)

[概要] PS の種々の並列化粒度に対して速度向上の解析を行う。また負荷の均等化を図った粗粒度並列化方式

を提案する.

(2) 自己認識論理のエージェント系への拡張とその階層的知識の表現への応用 外山勝彦, 稲垣康善 (名大)
〔概要〕 Moore の自己認識論理を複数エージェントの場合に拡張し, 階層的知識の表現と推論の形式化に応用する.

(3) GLP を核とした学習システムの構築

赤間 清 (北大)

〔概要〕 GLP の理論を基礎として学習システムの構築方法を議論する.

(4) GLP の理論 IV

赤間 清 (北大)

〔概要〕 論理積や制約付加による縮小系の生成について議論し, 理論を制約付き変数などに適用する方法を示す.
5月19日 (金) (4件)

(5) 代数学的手法に基づく幾何学的概念の推論

伊庭斉志, 井上博允 (東大)

〔概要〕 代数学的手法に基づく幾何学的推論と, 定理の証明, 画像理解, ロボティックスなどへの応用について述べる.

(6) コネクショニストモデルを用いた知識ベースシステム

萩原 馨 (ソニー)

〔概要〕 知識ベースシステムにコネクショニストモデルを導入し, 複数概念の並列探索, 文脈依存検索を実現する.

(7) 遅延照合アルゴリズムによるルール型計算システム実行方式 吉瀬 隆, 小泉 忍, 山野紘一 (日立)

〔概要〕 ルール型計算システム実行方式として検索条件の照合を遅延評価するアルゴリズムを考案し, 処理系を作成した.

(8) 日本語による自動プログラミング

菅原昌久, 重永 実 (山梨大)

〔概要〕 自然言語 (日本語) によるプログラム仕様から LISP 関数を組み合わせて LISP プログラムを自動的に生成する.

◆ 第72回 自然言語処理研究会

(発表件数: 9件)

(主査: 田中穂積, 幹事: 田中裕一, 徳永健伸, 内藤昭三)

日 時 平成元年5月19日 (金) 9:30~17:00

会 場 三田国際ビル アネックス A1会議室 (三田国際ビル横の低層の建物)

〔東京都港区三田 1-4-28, JR: 田町 (三田口) 下車, 徒歩12分, 都営地下鉄: 三田線芝公園下車, 徒歩5分.
Tel. 03 (789) 5521 (横井俊夫)〕

—9:30~12:00—

議 題

(1) キーボード対話における名詞句の同一性の理解

野垣内出, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 ドメイン知識を用いた対話における名詞と名詞の照応関係を理解するための手法について述べる.

(2) HPSG に基づく英文の構文チェッカ

中野幹生, 建石由佳, 津田 宏, 小野芳彦, 山田尚勇 (東大)

〔概要〕 Feature の不一致を容認して解析を続ける HPSG パーザを使い, 英文の文法チェッカを作成した.

(3) 多言語間翻訳辞書からの中間概念の自動抽出アルゴリズム

田中穂積, Hartono, 徳永健伸 (東工大)

〔概要〕 多言語間翻訳辞書を利用して, 中間言語で使用する語彙を自動的に抽出するアルゴリズムについて述べる.

(4) 談話意味構造の極小拡大を求めることによる照応処理について

内藤昭三, 島津 明 (NTT 通研)

〔概要〕 発話の解析結果を満たすように談話意味構造を極小拡大することによる談話処理法とその照応処理への応用を述べる.

—13:00~17:00—

(5) 文脈理解への一考察 —内部検証空間を用いた日本語非定型構文の文脈解析—

納富一宏, 内山明彦 (早大)

〔概要〕 知識との無矛盾性を保証する内部検証空間により, 非定型構文の文脈構造を解析する手法について述べる.

(6) LFG に基づく並列型パーズング法

寺下陽一, 二口邦夫 (金沢工大)

〔概要〕 LFG に基づき, 形態素解析をも含む日本語向き並列パーズング法を提案し, その実験結果を報告する.

(7) コード方式日中機械翻訳の実験システム JCMT の概要

任 福継, 宮永喜一, 枅内香次 (北大)

〔概要〕 本論文はコード方式の機械翻訳を提案し, これに基づく日中機械翻訳実験システムの概要, 翻訳結果を報告する.

(8) 共起関係に注目した DM 分解と確率的推定による単語クラスタリング

松川智義, 中村順一, 長尾 真 (京大)

〔概要〕 単語の共起データを 2 部グラフとみなし, 枝の多い部分 2 部グラフを探すことで単語のクラスタリングをする.

(9) 多言語翻訳のための中間言語の構成法

内田裕士, 朱 美 英 (CICC)

〔概要〕 多言語翻訳のための中間言語の設計において時制, アスペクト等言語に依存した情報の取り扱い方について述べる.

◆ 第 42 回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 12 件)

(主査: 松下 温, 幹事: 水野忠則, 山崎晴明, 若山博文)

日 時 平成元年 5 月 19 日 (金) 9:00~17:30

会 場 NTT プラザ松山 (電信電話会館)

〔松山市清水町 3-79, JR: 松山下車, タクシーで 10 分, 松山観光港よりタクシーで 20 分 (約 2,000 円), 松山空港よりタクシー 25 分, ただし両港より JR: 松山行バス有り. Tel. 0899 (24) 6100〕

—9:00~12:00—

議 題

(1) 分散型問題解決における問題割り当て

北村泰彦, 奥本隆昭 (大阪市立大)

〔概要〕 分散型問題解決における問題割り当ての概念と二方向回覧板方式による実現法について述べる.

(2) コンピュータ・コミュニケーション・システム設計における初期要求知識獲得について

木下哲男 (沖電気), 菅原研次 (千葉工大), 白鳥則郎 (東北大)

〔概要〕 コンピュータ・コミュニケーション・システムの設計に必要な要求仕様の知識を効率的に抽出する方式の概要を述べる.

(3) プログラム部品利用による通信ソフトウェア開発支援

田中功一, 佐藤文明, 宗森 純, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 プログラム部品の考えを利用した SDL ベースの通信ソフトウェア開発支援方法とその実現について述べる.

(4) 会議支援システムモデリングの検討

春田勝彦, 氏家正美, 清水明宏, 久保田浩司 (NTT 通研)

〔概要〕 オフィスの共通業務である会議を支援するシステムの機能モデルおよび電子メールベースの通信モデルを提案する.

(5) データ圧縮機能を内蔵した画像データベース・システム

山田芳郎, 河本幸生, 田崎三郎 (愛媛大)

〔概要〕 組織的ベクトル量子化手法による順次再生可能なデータ圧縮機能を内蔵したデータベースについて述べる.

—13:00~17:30—

(6) 安全放送通信について

滝沢 誠 (電機大)

〔概要〕 ETHERNET 上で安全なグループ通信を行うプロトコルについて論じる.

(7) 分散システム構築におけるネットワーク負荷の評価

斎藤正史, 落合真一 (三菱電機)

〔概要〕 NFS とディスクレス WS 使用時のネットワーク負荷の測定結果を基に, 分散システム構築時の要件を提案する.

(8) 大規模分散環境 WIDE の構築

村井 純 (東大), 加藤 朗 (東工大), 佐藤智満 (慶大) 橋本博之 (電総研), 山口 英 (阪大)

〔概要〕 大規模分散環境の基盤の確立を目的として研究、実験を開始した「WIDE」の概要について報告する。

(9) WIDE 上の X. 25 機能の実装と設計

本田和弘, 加藤直樹, 尾上 淳 (慶大), 村井 純 (東大), 中島達夫, 所真理雄 (慶大)

〔概要〕 複数の論理チャンネルを効率良く使用するアルゴリズムを含んだ WIDE の X. 25 機能の設計, 実装, 評価を報告する。

(10) WIDE 資源管理機構

嵯峨和幸, 石河裕子, 海野英俊, 追川修一 (慶大), 村井 純 (東大)

〔概要〕 階層的な名前空間を用い, 認証機構によるアクセス権の問題を解決した大規模分散環境の資源管理機構を議論する。

(11) OSI ディレクトリシステムの実装と評価

小花貞夫, 西山 智 (KDD)

〔概要〕 OSI ディレクトリシステムについて, その実装方法と, 評価結果について報告する。

(12) リレーショナル型データベースを用いた OSI ディレクトリ情報ベース (DIB) の実現と評価

西山 智, 小花貞夫 (KDD)

〔概要〕 OSI ディレクトリ・システムの DIB 機能を RDB を用いて実現した。その手法と評価について報告する。

◆ 第 29 回 ソフトウェア基礎論研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 佐藤雅彦, 幹事: 柴山悦哉, 田中二郎, 萩野達也)

日 時 5月18日(木) 13:00~17:00

5月19日(金) 9:00~12:00

会 場 豊橋技術科学大学 情報工学系 A-304 教室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 閉集合を真理値とする論理を用いた情報の部分性の取り扱い

織田 充 (富士通国際研)

〔概要〕 対象の情報が部分的にしか与えられない状況を扱う論理として, 真理値を閉集合とする論理体系を提案する。

(2) 並列論理型言語による OS の記述

越村三幸, 佐藤裕幸, 近山 隆 (ICOT)

藤瀬哲朗, 松尾正浩 (三菱総研), 和田久美子 (沖電気)

〔概要〕 並列論理型言語で OS を記述する際に重要となる機能を, 主に言語機能の観点から述べる。

(3) 制約指向論理型言語に基づく対話的問題解決環境

和気朝臣, 清水広之, 細野善久, 山岡孝行, 竹内彰一 (三菱中研)

〔概要〕 制約指向論理型言語, Incremental query に基づく知識メディアステーションの知識処理方法について述べる。

(4) LOTOS 実行系の並列処理環境

野村真吾, 長谷川亨, 瀧塚孝志 (KDD)

〔概要〕 通信プロトコルの仕様記述言語 LOTOS の実行系の構想と, これを実現するための並列処理環境について述べる。

(5) 通信距離の評価に基づくハイパキューブ計算機のタスクアロケーション手法

堀池 聡 (三菱電機)

〔概要〕 ハイパキューブのネットワークの各ノードにタスクをマッピングする手法を提案する。通信コストの評価に, 今回はゲイン関数を用いている。

(6) 確率付きネットワーク上の期待最大流について

永持 仁, 千葉 貢, 楠 菊信 (豊橋技科大)

〔概要〕 期待最大流を計算する問題については, これまで下限値を計算する手法が知られている。この下限値が正確な期待最大流に等しくなるための条件について述べる。

(7) 2次元プッシュダウン・オートマトン

伊藤 暁, 井上克司, 高浪五浪 (山口大)

〔概要〕 入力パターンが2次元方形配列であるようなプッシュダウン・オートマトンの基本的な性質を述べる。

(8) 高々スター次数 (2, 1) の拡張 AL 正規表現

劉 億根, 橘口攻三郎 (豊橋技科大)

〔概要〕 次数 (2, 1) のスター演算子の概念を導入し, 高々スター次数 (2, 1) の拡張 AL 正規言語のクラスのいくつかの性質を明らかにする。

- * 今回の研究会は電子情報通信学会（コンピュータ研究会）との共催で開催されます。上記会告は、3月20日現在の申込みによるもので、プログラムは暫定的なものです。上記期日以降の申込み分を含めた最終的なプログラムは電子情報通信学会誌4月号に掲載されますのでご了承ください。
- * 5月18日（木）夕方より合同懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。

◆ 第1回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数：6件)

(主査：杉田繁治，幹事：小沢一雅，及川昭文，洪 政国)

日 時 平成元年5月19日（金）10：00～17：00

会 場 国立民族学博物館 2階 会議室

〔大阪府吹田市千里万博公園，北大阪急行線：千里中央下車または，阪急（千里線）：阪急山田下車，阪急バス（エキスポランド方面）：日本庭園前（記念公園東口）下車あるいは，JR（東海道本線）：茨木下車または，阪急（京都線）：茨木市下車，阪急・近鉄バス（エキスポランド方面）：日本庭園前（記念公園東口）下車，徒歩10分。または，各駅よりタクシーで10分。Tel. 06 (876) 2151〕

—10：00～12：00—

議 題

(1) 人文科学とコンピュータ

杉田繁治（民博）

〔概要〕 人文科学分野はコンピュータ利用によってどう変わるか。また，そこで求められる情報処理機能は何かを議論する。

(2) 国際会議にみる人文科学分野へのコンピュータ応用研究

小沢一雅（大阪電通大），及川昭文（国立教育研），洪 政国（日本IBM）

〔概要〕 人文科学分野へのコンピュータ応用研究に関する著名な国際会議での発表論文を通して，研究の現状と動向をみる。

—13：30～16：20—

(3) 考古学研究とコンピュータ

田中 琢（奈文研）

〔概要〕 考古学研究のためのコンピュータ利用方法と問題点について，考古学研究者の立場より経験をもとに報告する。

(4) 歴史学研究支援のためのコンピュータ利用

星野 聡（京大）

〔概要〕 歴史研究に対するコンピュータ利用，特にテキスト解釈への支援や図形処理の応用につき例をあげて説明する。

(5) 美術研究とコンピュータ

早川聞多（日文研）

〔概要〕 美術研究へのコンピュータ利用の現状と今後の問題点について述べる。

(6) 総合音楽情報システム —採譜，読譜，演奏，鑑賞するコンピューター—

井口征士，片寄晴弘（阪大）

〔概要〕 音楽における目と耳の実現。それを利用した人間らしい演奏や人間もどきの鑑賞文を出力するコンピュータの紹介をする。

—16：20～17：00（見学）—

(7) 民博コンピュータシステム

◆ 第7回 アルゴリズム研究会

(発表件数：5件)

(主査：野崎昭弘，幹事：今井 浩，中村勝洋，西関隆夫)

日 時 平成元年5月22日（月）13：30～16：50

会 場 機械振興会館 地下3階 研修 1号室（所在地は前記参照）

議 題

(1) n 点から分散，直径最小の k 点を求めるアルゴリズム

今井 浩（九大），加藤直樹（神戸商大）

〔概要〕 n 個の点の集合から，分散あるいは直径が最小となる k 点の部分集合を求める問題に対してアルゴリズムを与える。

(2) 3-連結全域部分グラフを求めるアルゴリズム

鈴木 均，高橋奈穂美，西関隆夫（東北大）

〔概要〕 与えられた 3-連結グラフの全域部分グラフで 3-連結で、辺数が少ないものを求める線形時間アルゴリズムを与える。

(3) ビットの操作に関するアルゴリズム

中森眞理雄 (農工大)

〔概要〕 計算機の語中のビットを移動したり転置したり 1 の個数を (m を法として) 数えたりするアルゴリズムを論ずる。

(4) A Geometric Construction of Optimal Hash Function

浅野哲夫 (大阪電通大), 徳山 豪 (日本 IBM)

〔概要〕 2つのハッシュ関数から 1つの最適なハッシュ関数を求める幾何的アルゴリズムを示す。

(5) Advanced Seminar on Computational Graph Theory の報告

西関隆夫 (東北大)

〔概要〕 標記セミナーの報告。

◆ 第 47 回 設計自動化研究会

(発表件数: 2 件)

(主査: 平川和之, 幹事: 数馬好和, 神戸尚志, 山田輝彦)

日 時 平成元年 5 月 23 日 (火) 13:00~16:30

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) ルールベース論理設計ルール検証プログラム

小迫靖志 (三菱電機)

〔概要〕 論理設計ルールをルールベース化してその取扱いを柔軟にした設計ルール検証プログラムについて述べる。

(2) CICC '89 報告

小野寺秀俊 (京大)

〔概要〕 本年 5 月 15~18 日の 4 日間, 米国で開催された Custom Integrated Circuits Conference の概要を報告する。

—14:30~16:30—

(3) パネル討論 テーマ: VLSI 設計と CAD

司会: 平川和之 (沖電気)

① フルカスタム・マイクロプロセッサの設計手法最適化

宇佐美公良, 岩村 淳 (東芝)

② 32ビット CMOS マイクロプロセッサの設計手法

和深 裕 (日電)

③ VLSI 設計と CAD

喜田祐三 (日立)

④ コアを内蔵する LSI の設計と CAD

高田淑朗 (沖電気)

◆ 第 65 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 原田賢一, 幹事: 永田守男)

日 時 平成元年 5 月 30 日 (火) 13:30~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 自動プログラミングのためのファイル処理記述言語とその実現

二方厚志, 原田 実 (電力中研)

〔概要〕 業務処理をモデル化し, それに基づくファイル処理記述言語とそのモジュールへの展開について発表する。

(2) CASE 基盤環境ソフトウェア CAD とその特定アプリケーション領域への適用

吉岡明彦, 藪田和夫 (富士通)

〔概要〕 ソフト開発で用いられる種々の手法論を共通に支援できる基盤ツールと, それを用いた種々の応用例を述べる。

(3) プログラム設計のための構造表現モデルの提案と複合設計への適用

大野浩史 (日本ユニシス), 菊野 亨, 鳥居宏次 (阪大)

〔概要〕 日本語仕様に基づくプログラム設計のための構造表現モデルの提案と、複合設計への適用実験について述べる。

(4) 分散ネットワーク上のソフトウェア設計支援環境 落水浩一郎, 太田 剛, 方 学芬 (静岡大)

〔概要〕 ソフトウェアプロセスの記述・実行, 電子会議, オブジェクト管理支援機能からなるソフトウェア設計支援環境の設計について述べる。

◆ 情報学基礎研究会

第13回研究会を6月2日(金) 特集「ハイパテキスト・ハイパメディアの是非を通じてデータをしっかり捉える」で12件の発表を予定しています。

また第14回は8月1日(火) 特集「フルテキスト・データベースのご利益はどこにあるか?」開催趣旨は以下のとおりです。

昨今, 論文, 記事等の「全文」そのものを収録したデータベースが, 情報検索サービスにおける次の展開方向として話題になっている。そこでは, 論文などの原著者の段階での機械可読文書の作成から, そのデータベース化による検索サービスの提供や印刷物の発行にいたる全体を, 一貫処理する方法が追求される。しかし, 全文データベースの先行的事例や, デスクトップ・パブリッシングの普及, 文書の論理構造・割付構造などに関する標準化の進展などにもかかわらず, そうした全文データベースの利点として, 具体的に何が求められるべきかについて, 現時点では必ずしも明確ではない。

この際, 全文データベースを作る側と使う側の人それぞれにとって, 有益であるようなシステムとはどのようなものであるのか, よくよく考えてみたい。第14回の発表をご希望の方は5月末までに学会事務局研究会担当でお申込みください。

◆ オペレーティング・システム研究会

第43回研究会を下記のとおりに開催いたします。なお, 詳細は次号(5月号)を参照願います。奮ってご参加ください。

日 時 平成元年6月9日(金) 9:45~17:00

会 場 機械振興会館 6階65号室

議 題

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| (1) 高信頼度オンライン・トランザクション・システム | 宮島 明 (日電) |
| (2) オンライン高速履歴情報取得制御方式 | 松沢尚光 (日立) |
| (3) OLTP とフォールトトレランス | 渡辺榮一 (タンデムコンピュータズ) |
| (4) オンライン処理の性能評価とその標準化について | 北岡正治, 田中 茂 (富士通) |
| (5) ある特定条件下のシステムオーバーヘッド低減による性能向上の例 | 屋敷田広実 (東芝) |
| (6) マルチプロセッサにおける分散ファイル管理方式 | 井村佳弘, 谷口秀夫, 遠藤秀和 (NTT データ) |
| (7) 異種 OS を結ぶ分散ファイルシステム | 谷口秀夫, 遠城秀和, 箱守 聡 (NTT データ) |
| (8) 可変構造型並列計算機の並列/分散オペレーティング・システム | |

福田 晃, 福澤祐二, 廣谷良彰, 村上和彰, 末吉敏則, 富田眞治 (九大)

人文科学とコンピュータ研究会発足のお知らせ

目 的

近年にいたりコンピュータはさまざまな分野と係わりをもつようになり、コンピュータの応用分野が拡大すると共に、情報処理の新たな展開が期待されている。特に、これまでは機械とか数理といったものから最も縁遠い分野とされていた歴史、考古学、民族学、文学、社会学、宗教、哲学、美術などの人文科学系とか博物館、美術館においてもコンピュータを積極的に使おうとする機運が高まってきた。また一方では、コンピュータの多様な応用利用にともなう社会的インパクトも随所で議論されている。

人文科学系では思弁的作業が大きな比重をしめていること、処理が定型的ではなく個別にすすめられること、利用者主導の立場がなによりも重要であること、取り扱う情報やその媒体と処理が極めて多岐にわたるなど、情報処理的には高度で多分野の技術が要求され、情報処理の専門的立場からの体系的かつ本格的な取り組みが必要である。また、人文科学系に属する諸学問分野と情報処理分野の専門家たちによる幅広い交流が基本ともなっていること、これらの応用コンピュータシステムは、開発者主導である現状に対して、利用者主導の立場を重視していることなどは、情報処理の学術・技術のあり方に対しての大きな問題提起でもある。

以上のとおり、情報処理、コンピュータを人文科学系に応用するための学術・技術的究明は人文科学系の学問の発展に役立つだけでなく、情報処理、コンピュータ技術の応用拡大や基本課題の発掘・解明に貢献するところが大きいことと、専門家間の交流の機運の高まりを考慮して、コンピュータと人文科学の接点を重視した新しい研究会を発足させることとなった。

多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

主要な研究分野

1. 人文科学、博物館・美術館への情報処理、コンピュータの応用要素と実現技術。その概念、モデル、ハードウェア、ソフトウェア、実現事例など。
2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術。その概念、モデル、要求分析の方法、ハードウェア、ソフトウェア、評価方法、実現事例など。
3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力。その方法、評価方法、事例など。
4. コンピュータ、情報処理の社会的側面。理工学的・社会科学的解明についての基礎と事例など。

提 案 者 (五十音順)

井口征士 (阪 大)	植村俊亮 (農工大)	浮田輝彦 (東 芝)
江口一久 (民 博)	及川昭文 (国立教育研)	小沢一雅 (大阪電通大)
北風晴司 (日 電)	坂本恭章 (東京外大)	新美康永 (京都工芸繊維大)
杉田繁治 (民 博)	田中 琢 (奈良国立文化財研)	照井武彦 (歴 博)
徳永幸生 (NTT)	長瀬真理 (東京女子大)	八村広三郎 (京 大)
早川聞多 (国立国際日本文化研究センター)		星野 聡 (京 大)
洪 政国 (日本IBM)	榊形公也 (大阪教育大)	松田芳郎 (一橋大)
松本浩一 (情報大)	八重樫純樹 (歴 博)	安永尚志 (国文学研究資料館)
山本毅雄 (情報大)		

平成元年度研究会のお知らせ

平成元年度は、下記のとおり **21 研究会（新設＊1 研究会）** で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。（ただし、本学会員に限る。）
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ￥ 1,000（学生 ￥ 500）をいただきます。
（ただし、部数に制限があります。）

＊ 新設

研 究 会 名		○ 主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	○ 田中 穂積 田中 裕一 徳永 健伸 内藤 昭三	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	○ 牧之内顕文 大里 博志 清木 康 佐藤 和洋	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB プロセッサ, アーキテクチャ, マルチメディア処理, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB, 知識ベース, インタフェース
3	知識工学と人工知能	○ 諏訪 基 中島 秀之 西田 豊明 原口 誠	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知過程 (思考, 記憶, 神経回路網), 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4	記号処理	○ 中西 正和 小谷 善行 多田 好克 村尾 裕一	・Lisp, Prolog, オブジェクト指向言語, LOGO 等記号処理言語の処理系, 言語仕様等に関する研究 ・エディタ, ウィンドウシステム, ネットワーク等 ・プログラミング環境 ・数式処理とそのシステムに関する研究 ・人工知能のための処理システムに関する研究
5	ソフトウェア工学	○ 原田 賢一 永田 守男	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, ソフト生産用エキスパートシステム, 管理, メトリックス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6	マイクロコンピュータとワークステーション	○ 若鳥 陸夫 氷治 義弘 森陽 二郎 山田 剛	1. マイクロコンピュータとワークステーションの構成・ハードウェア 2. マイクロコンピュータとワークステーション用の操作系 3. マイクロコンピュータとワークステーション用の言語及び言語処理系 4. マイクロコンピュータとワークステーションの応用 (教育, 研究, 計測, ロボット, 事務, 卓上出版, 通信)
7	計算機アーキテクチャ	○ 田中 英彦 喜連川 優 長谷川 隆三 横田 実	計算機システムの設計・機械・制御技術, フェームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列処理アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	○ 亀田 壽夫 川島幸之 村松 助洋	OS の基礎・構造論, 人間工学的側面, プログラミング環境, 分散・並列処理 OS, システム性能評価, 信頼性, 関連するコンピュータシステムの諸問題
9	コンピュータビジョン	○ 鳥脇純一郎 大田 友一 田島 譲二	視覚から入力される画像や物体などに対する情報処理研究の発表の場であり, これを通じて我が国における研究の向上とその育成, 並びに, 研究者間の交流を推進する. 具体的な研究範囲は, 画像処理, ロボットビジョン, 視覚系モデル, 物体認識, 動画像解析, 画像データベースである.
10	設計自動化	○ 平川 和之 数馬 好和 神戸 尚志 山田 輝彦	LSI/VLSI・プリント基板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データ・ベース, 知識ベース CAD, 設計検証, テスト容易化設計, テスト評価

研 究 会 名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○松下 温	水野 忠則 山崎 晴明 若山 博文	1. マルチメディアによる 高度情報通信 ネットワーク・構築技術とその応用 2. 分散処理 システムの設計と運用技術・機能分散, 負荷分散等
12	ヒューマンインタフェース (文書処理とヒューマンインタフェース)	○木村 泉	角田 博保 黒須 正明 小橋 史彦	1. 計算機システムのヒューマンインタフェースとその評価 2. 思考メカニズムと認知モデル 3. 日本文入力方式 4. 文書処理 5. OA とのかかわり
13	グラフィックスと CAD	○川合 慧	宇野 栄之 中嶋 正 守屋 慎次	グラフィックス・ソフトウェア/ハードウェア, グラフィックス言語, 図形処理・表示アルゴリズム・表示技術, CAD/CAM, アニメーション, AI の CAD への応用
14	数値解析	○名取 亮	関口 智嗣 野寺 隆 福井 義成	・数値計算のアルゴリズムの開発 ・スーパーコンピュータによる超大型計算 ・数式処理との融合 ・ハードウェアや言語への提案
15	ソフトウェア基礎論	○佐藤 雅彦	柴山 悦哉 田中 二郎 萩野 達也	・ソフトウェアの理論的基礎 (仕様記述, 並列・分散処理, 拡張論理等)・計算モデル (論理型, 関数型, オブジェクト指向等)・プログラミングの基礎 (自動合成と変換, デバッグ等)
16	情報システム	○伊吹 公夫	鷹野 澄 槻木 公一 西原 良一	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	○笈 捷彦	上田 和紀 徳田 雄洋 戸村 哲	プログラミング言語の処理系, プログラミング言語の設計, 標準化, メタ言語と言語の定義
18	情報学基礎	○藤原 譲	有川 節夫 岩野 和生 吉田 郁三	1. 情報の同定, 識別, 記述, 評価など 2. 情報の媒体, 変換, 分類, 標準化など 3. 情報の管理可能性, 組織化, モデルなど
19	コンピュータと教育	○有山 正孝	雨宮 幸雄 大槻 説乎 竹谷 誠	1. 知的教育システム (①知的要素技術の基礎的研究, ②知的教育システム開発の実践的研究, ③知的インタフェース) 2. 情報処理教育 (①カリキュラム開発, ②教育技法)
20	アルゴリズム	○野崎 昭弘	今井 浩 中村 勝洋 西関 隆夫	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する組合せアルゴリズム 2. 計算幾何学と計算代数学 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム 6. データ構造 7. 計算複雑さの理論
21	*人文科学とコンピュータ	○杉田 繁治	小沢 一雅 及川 昭文 洪 政国	1. 人文科学, 博物館・美術館への情報処理, コンピュータの応用要素と実現技術 2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術 3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力 4. コンピュータ, 情報処理の社会的側面

◆ 研究発表会開催予定（6月～1990年3月）

（研究会名）

（開催日・会場）

自然言語処理	6月29日(木)・30日(金) 琉球大 9月22日(金) N T T 11月16日(木)・17日(金) A T R 1月19日(金) 福岡工大 3月16日(金) 阪大
データベース・システム	7月20日(木)・21日(金) 沖縄 9月8日(金) 機・B 3-研1 11月17日(金) 広島大 1月18日(木) 機・B 3-1 3月 東京
知識工学と人工知能	7月13日(木)・14日(金) 長岡技術大 9月21日(木)・22日(金) 富士通 11月8日(水) 機・6 F-62 1月18日(木)・19日(金) 阪大 3月21日(水)・22日(木) 東京
記号処理	6月16日(金) 慶大 9月29日(金) 機・6 F-65 11月22日(水) 富山 1月 大 3月 電総研
ソフトウェア工学	6月27日(火) 機・B 3-2 7月25日(火) 機・B 3-2 9月26日(火) 地方 11月28日(火) 機・B 3-2 2月8日(木)・9日(金) 地方
マイクロコンピュータと ワークステーション	6月27日(火) 機・B 3-1 9月22日(金) 地方 12月1日(金) 機・B 3-1 2月20日(火) 機・B 3-2
計算機アーキテクチャ	7月13日(木)・14日(金) 北大 9月19日(火) 機・B 3-2 11月20日(月)・21日(火) 神戸大 1月25日(木)・26日(金) 福井大 3月23日(金) 機
オペレーティング・システム	6月9日(金) 機・6 F-65 9月8日(金) 機・B 3-研1 11月10日(金)・11日(土) 宇都宮大 2月23日(金) 機・6 F-65
コンピュータビジョン	7月20日(木) 筑波大 9月21日(木) N T T 横須賀 11月16日(木) 金沢大 1月25日(木)・26日(金) 阪大 3月15日(木) 機
設計自動化	7月11日(火) 機・6 F-65 10月17日(火) 明大 12月14日(木)・15日(金) 奈良女子大 2月20日(火) 機・B 3-1
マルチメディア通信と分散処理	9月28日(木) 機・6 F-67 1月26日(金) 機・6 F-65
ヒューマンインタフェース	7月13日(木) 機・6 F-65 9月13日(水) 機・B 3-2 11月9日(木) 機・B 3-2 1月18日(木) 機・B 3-2 3月8日(木) 地方

グラフィックスとCAD	7月21日(金) 機・B 3-2 8月17日(木)・18日(金) 集中研究会(浜松) 10月19日(木) 九大 12月15日(金) NTT 横須賀 2月23日(金) 機・B 3-2
数値解析	7月7日(金) 機・B 3-1 10月7日(土) 地方 12月8日(金) 機・B 3-2 3月中旬 機
ソフトウェア基礎論	9月8日(金) 機・B 3-2 9月20日(水) NTT 武蔵野 11月13日(月) 地方 12月8日(金) 富士通 3月9日(金) 機・B 3-2
情報システム	7月18日(火) 私学会館 10月17日(火) 機・B 3-1 1月16日(火) 機・B 3-1 3月20日(火) 機
プログラミング言語	6月13日(火) 機・B 3-1 9月 地方 12月 機 2月 機
情報学基礎	6月2日(金) 機・B 3-1 8月1日(火) 機・B 3-1 10月6日(金) 機・B 3-1 12月7日(木) 機・B 3-1
コンピュータと教育	7月13日(木) 機・B 3-2 9月14日(木) 豊橋 12月14日(木) 機・B 3-2 2月15日(木) 機・B 3-2
アルゴリズム	6月23日(金) 名大 7月27日(木)・28日(金) 東工大 9月22日(金) 群大 10月24日(火) 日本IBM 11月20日(月)・21日(火) 九大 1月24日(水) 機・B 3-研1 3月29日(木) 三菱電機(大船)
人文科学とコンピュータ	9月1日(金) 日本IBMまたは国文学資料館 12月1日(金) 奈良文化財センターまたは奈良大 3月9日(金) 日本IBMまたは国文学資料館

注) 機-機械振興会館

* 各研究会に発表申込希望者は開催の3カ月前までに研究会発表申込書(本欄添付)を事務局研究会係までご送付ください。

研究発表会・シンポジウム論文原稿執筆要領

社団法人 情報処理学会

1. (目的) 研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、研究内容等の発表資料として用いるほか、来聴できない研究会登録会員等に講演内容を知らせる役割ももっていますので、それだけ読めば研究の目的、考え方、手法および結論が理解できるように配慮してください。
2. (ページ数) 原稿の長さは各研究会所定のページ数 (ページ) 以内とし、止むを得ず超過する場合は各主査または担当幹事の承認を求めてください。
3. (原稿用紙) 研究発表会資料およびシンポジウム論文集は、経費節約とミスプリント防止のため、オフセット印刷にしています。A 4 判原稿は寸法比約 85% に、B 4 判原稿は約 70% に、それぞれ B 5 判の大きさに縮写、印刷しますので、製本された場合の読みやすさについてご注意ください。
4. 原稿は、ワープロ等を用いて、活字体で作成してください。なお、オフセット印刷ですので、印字品質にご配慮ください。
原稿を手書きで作成される場合には、原稿用紙を学会研究会・シンポジウム係へご請求ください。
5. ワープロ等で原稿を作成される場合、次の例を一つの目安としてください。ただしこの例は、活字を約 10.5 ポイント (約 3.5mm 角) とした場合を想定しています。一般に字の大きさと不釣合に行間を詰めると大変読みにくくなりますので、ご注意ください。
 - (1) A 4 判 1 段組の場合 46 字×40 行
 2 段組の場合 22 字×40 行×2 段
 - (2) B 4 判 1 段組の場合 50 字×40 行
 2 段組 " 24 字×40 行×2 段
 - (3) 1 ページ目の様式、および上下左右 (各 25mm 程度) の空け方は、添付の手書き用原稿用紙を参考にしてください。
 - (4) 2 段組の場合、段間は 2 文字空き程度が適当です。
6. (図・表・写真) 図および表は、原稿用紙の最も適当な位置に原則として直接記入してください。幅いっぱいにならない図・表は左側または右側に寄せて、反対側の余白は本文に利用してください。図・表はトレーシングペーパー等にも書いても結構ですが、その場合は、図・表の入る余白を取って、その箇所に図・表の上部のみ、しっかりと糊付け(ペーパーセメント、両面粘着テープが望ましい。セロハンテープは不可)してください。写真も同様です。なお、図等は、縮小したとき見にくくならないようにご留意願います。
7. (締切期日・提出日) 原稿は 月 日 () までに着くよう、データシート (学術情報センター提出用、シンポジウムは不要) と一緒に下記あて提出してください。提出期限に遅れますと研究発表会またはシンポジウムの資料に掲載できなくなりますのでご注意ください。
8. (原稿の返却) 申込みにより返却いたします。

(提出先) 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2

社団法人 情報処理学会 研究会・シンポジウム係
Tel. 03 (505) 0505

年 月 日

平成元年度研究会（新規）登録申込書

(フリガナ)
○ 会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
所在地 (〒 _____)

○ 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）
(〒 _____)

(ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること) (※新設)

申込み	研 究 会 名	登録費	申込み	研 究 会 名	登録費
☐	自然言語処理	3,000円	☐	ヒューマンインタフェース	3,000円
☐	データベース・システム	3,000円	☐	グラフィクスと CAD	3,000円
☐	知識工学と人工知能	2,500円	☐	数値解析	2,500円
☐	記号処理	2,500円	☐	ソフトウェア基礎論	3,000円
☐	ソフトウェア工学	3,000円	☐	情報システム	3,000円
☐	マイクロコンピュータとワークステーション	2,500円	☐	プログラミング言語	2,500円
☐	計算機アーキテクチャ	3,000円	☐	情報学基礎	2,500円
☐	オペレーティング・システム	2,500円	☐	コンピュータと教育	2,500円
☐	コンピュータビジョン	3,500円	☐	アルゴリズム	2,500円
☐	設計自動化	3,000円	☐	* 人文科学とコンピュータ	2,500円
☐	マルチメディア通信と分散処理	3,000円	☐		

○ 登録費（年間）2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合 計 _____ 円也

○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途必ず個人名を事務局までお知らせください。

- ☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 ☐ 現金持参
☐ 郵便払込：口座番号 東京 5-83484（払込用紙に希望研究会名を記入のこと。）
☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普）No. 1013945

○ 払込み日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

○ 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。

*登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください（昭和 63 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 昭和 63 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「平成元年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（2月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限りです。各研究会登録費は年間上表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

(社)情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

年 月 日

研究会発表申込書 (様式 2)

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会									
発表希望の 研究会開催日	年 月 日 ()									
タイトル										
発表者名 (略称所属)										
概要 (50 字以内)										
原稿用紙送付先住所	〒		Tel. — (内線)							
氏 名										

年 月 日受付
研究会名 資料 No. 開催日 幹事送付済み その他

		年 月 日		
--	--	-------	--	--

情報処理学会 第 39 回 全国大会実施要領

情報処理学会第 39 回全国大会（平成元年後期）を次の要領で開催します。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

第 37 回から講演発表申込みは本論文で行い、論文締切後、ただちにプログラム編成委員会を開催し、プログラム編成を行うことになりました。

このため、講演申込、原稿用紙の請求、論文提出、講演日時のお知らせなどの方法が変更になっております。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 平成元年 10 月 16 日(月)～18 日(水)

会 場 九州工業大学（北九州市戸畑区仙水町 1-1）

日程一覧 1. 講演発表用原稿用紙等の請求

学会誌本号（Vol. 30, No. 4）掲載の請求書に記入して、応募規程 IV.1 の申込方法により請求してください。

2. 原稿用紙等の送付

請求書を 5 月 22 日(月) に締切り、事務局から「講演発表申込書」、「論文原稿用紙」等をお送りします。

3. 講演論文等の提出

講演論文（本原稿）、「講演発表申込書」等を一括して **7 月 10 日(月)** までに、学会事務局に必着するように提出ください。応募規程 IV.2 参照。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

4. プログラム編成委員会の開催

講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。この後、ただちに事務局から座長に依頼をいたします。

5. 講演発表者には講演番号を **8 月上旬**に到着するようご通知いたします。

6. 大会プログラムを学会誌 9 月号（Vol. 30, No. 9）に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

7. 論文集予約申込書を学会誌 7 月号（Vol. 30, No. 7）に掲載します。お早目にご予約ください。

応募規程

I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 平成元年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、表彰対象者になりません。

III. 講演論文該当分野

1. 情報科学一般

A. 一般

- a. 哲学, b. 歴史, c. 伝記, d. その他

B. 社会

- a. 規格, b. 標準化, c. 知的所有権, d. 社会問題, e. その他

C. 教育

- a. 情報科学・工学の教育, b. カリキュラム, c. コンピュータリテラシ, d. CAI, e. 教育工学,

- f. その他
- 2. 基礎理論及び基礎技術
 - A. 情報数学
 - a. 形式論理, b. オートマトン理論, c. 形式言語理論, d. 計算可能性の理論, e. 計算の複雑さ, f. アルゴリズム論, g. グラフ理論, h. 組合せ理論, i. ファジー理論, j. 符号理論, k. 整数論, l. その他
 - B. 情報理論及び OR
 - a. 情報理論, b. 線形・非線形計画法, c. 動的計画法, d. 整数計画法, e. ゲーム理論, f. 待ち行列理論, g. その他
 - C. データ解析
 - a. 推定・検定, b. 確率モデル, c. 統計・確率計算, d. 多変量解析, e. その他
 - D. 数値計算
 - a. 誤差解析, b. 関数近似, c. 補間, d. 線形計算, e. 非線形方程式, f. 数値微積分, g. 常微分方程式, h. 偏微分方程式, i. 積分方程式, j. 極値問題, k. 最適化, l. 特殊関数, m. 数式処理, n. 乱数, o. その他
 - E. シミュレーション
 - a. 有限要素法, b. 境界要素法, c. 差分法, d. モンテカルロ法, e. その他
- 3. 人工知能及び認知科学
 - A. 基礎理論
 - a. 探索, b. 定理自動証明, c. 推論方式, d. 知識表現, e. 知識獲得, f. 非単調理論, g. 学習理論, h. コネクションイズム, i. その他
 - B. 人工知能システム
 - a. エキスパートシステム, b. ガイダンスシステム, c. エキスパートシステム作成支援ツール, d. ゲームプログラム, e. 演繹データベース, f. 知能ロボット, g. その他
 - C. 自然言語処理
 - a. 機構翻訳, b. 自然言語インタフェース, c. 対話システム, d. 形態素解析, e. 構文解析, f. 意味解析, g. 文生成, h. 談話理解, i. 文法, j. 辞書, k. その他
 - D. パターン認識
 - a. 音声認識, b. 話者識別, c. 画像理解, d. 物体認識, e. 文字認識, f. リモートセンシング, g. その他
 - E. 生体情報処理
 - a. 視覚, b. 聴覚, c. 神経モデル, d. ニューラルネットワーク, e. その他
 - F. 感性情報処理
 - a. 心理モデル, b. 行動モデル, c. 感情モデル, d. その他
- 4. データ処理
 - A. 音声処理
 - a. 音声分析, b. 音声合成, c. その他
 - B. 画像・図形処理
 - a. 画質改善, b. 帯域圧縮, c. 符号化, d. 曲面合成, e. トモグラフィ, f. 3次元処理, g. グラフィックス, h. アニメーション, i. その他
 - C. テキスト処理
 - a. ワードプロセッシング, b. 日本語入出力, c. 文書処理, d. 卓上出版, e. フォントデザイン, f. その他
 - D. マルチメディア処理
- 5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論
 - a. プログラム理論, b. オペレーティングシステム理論, c. データベース理論, d. 形式的意味論, e. 算法論理, f. 検証理論, g. カテゴリ理論, h. 属性文法, i. 計算パラダイム, j. プログラム合成・変換, k. その他
 - B. プログラム言語及び仕様記述言語
 - a. 手続き型言語, b. 論理型言語, c. 関数型言語, d. オブジェクト指向言語, e. 並列処理言語, f. システム記述言語, g. 数式処理言語, h. シミュレーション言語, i. 仕様記述言語, j. その他
 - C. 言語処理系

- a. 構文解析, b. コード生成, c. 最適化, d. コンパイラ, e. インタプリタ, f. その他
- D. ツール
 - a. エディタ, b. デバッガ, c. ベリファイヤ, d. コンパイラジェネレータ, e. ウィンドウシステム, f. その他
- E. オペレーティングシステム
 - a. 記憶管理, b. 入出力管理, c. 障害管理, d. 通信管理, e. ファイル管理, f. ジョブ・タスク管理, g. 自動運転管理, h. 並列分散処理, i. 例外処理, j. 性能評価, k. その他
- F. データベース・情報検索
 - a. データモデル, b. データ言語, c. データベース設計, d. 質問処理, e. トランザクション処理, f. 一貫性制約, g. ファイル構成, h. 検索方式, i. 分散データベース, j. マルチメディアデータベース, k. その他
- G. プログラミング技術
 - a. データ構造, b. ガーベージコレクション, c. ハッシング, d. ソーティング, e. サーチング, f. その他
- 6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術
 - a. 設計理論, b. 要求分析法, c. 仕様記述法, d. プログラミング方法論, e. プロトタイピング, f. 部品化・再利用技術, g. プログラム自動構成, h. その他
 - B. テスト・保守
 - a. プログラムのテスト・デバッグ, b. プログラム検証, c. 性能評価, d. プログラム解析, e. 保守運用管理, f. その他
 - C. ソフトウェアプロセス
 - a. プロセスモデル, b. プロセスプログラミング, c. 工程管理, d. その他
 - D. 開発環境
 - a. 構成理論, b. 分散開発環境, c. 文書化支援, d. その他
 - E. ヒューマンファクタ
 - a. マン・マシンインタフェース, b. 要員教育・プロジェクト管理, c. プログラミング行動, d. その他
- 7. ハードウェア
 - A. 基礎理論
 - a. 組合せ回路理論, b. 順序回路理論, c. 論理設計理論, d. レイアウトアルゴリズム, e. ハードウェアアルゴリズム, f. その他
 - B. 論理回路
 - a. 記憶回路, b. 演算回路, c. 制御回路, d. 誤り検出・訂正回路, e. テスト容易化回路, f. その他
 - C. デバイス
 - a. 論理デバイス, b. 記憶デバイス, c. 入出力デバイス, d. ASIC PLD, e. その他
 - D. アーキテクチャ
 - a. 汎用計算機, b. 専用計算機, c. スーパーコンピュータ, d. ワークステーション, e. 高級言語マシン, f. 非ノイマンアーキテクチャ, g. 並列アーキテクチャ, h. マイクロプログラム, i. フォールトトレランス, j. その他
 - E. 周辺・端末
 - a. 外部記憶, b. ディスプレイ装置, c. ハードコピー装置, d. 文字読取装置, e. 図形入出力装置, f. 音声入出力装置, g. その他
 - F. 設計技術及び設計自動化
 - a. 方式設計, b. 機能設計, c. 論理設計, d. レイアウト設計, e. テスト設計, f. 設計記述言語, g. シリコンコンパイラ, h. その他
 - G. 開発環境
 - a. 統合化ツール, b. 設計環境, c. 設計データベース, d. その他
 - H. テスト・検証
 - a. LSI テスト, b. ハードウェア設計検証, c. 性能評価, d. その他
- 8. ネットワーク
 - A. 通信技術

- a. データ交換方式, b. 通信方式, c. 画像通信, d. トラヒック理論, e. ネットワークアーキテクチャ, f. プロトコル, g. プロトコル検証, h. その他
- B. ネットワーク管理
 - a. 名前管理, b. 経路管理, c. 障害管理, d. その他
- C. コンピュータネットワーク
 - a. WAN, b. LAN, c. 電子会議, d. 電子掲示板, e. 電子メール, f. 分散処理, g. その他
- 9. システム
 - A. 対話型システム
 - a. 構成理論, b. 方法論, c. CAE, d. CAD, e. CAM, f. CIM, g. CAI, h. 管制システム, i. 訓練システム, j. 意志決定システム, k. オフィスシステム, l. その他
 - B. オンラインシステム
 - a. 予約システム, b. バンキングシステム, c. その他
 - C. 制御システム
 - a. プロセス制御, b. 数値制御, c. 通信制御, d. 産業用ロボット, e. FA, f. その他
 - D. システム評価
 - a. 評価技法, b. 評価指標, c. 評価モデル, d. その他
- 10. 信頼性と安全性
 - A. 信頼性
 - a. 信頼性理論, b. 保全性理論, c. 信頼性評価, d. 故障解析, e. その他
 - B. 機密保護
 - a. 暗号理論, b. 認証, c. 鍵管理, d. 鍵配送, e. セキュリティ, f. その他
- 11. 応用
 - A. 企業等への応用
 - a. オフィス, b. 行政, c. 経営, d. 金融, e. 情報サービス, f. 生産管理, g. 計算センタ運営, h. 教育, i. その他
 - B. 工学等への応用
 - a. 航空・宇宙, b. 機械, c. 土木, d. 建築, e. 都市, f. 電気・電子, g. 計測, h. 生物, i. 物理, j. 化学, k. 原子力, l. 輸送・交通, m. 医学・歯学, n. その他
 - C. 芸術等への応用
 - a. 音楽, b. 絵画, c. 商業デザイン, d. その他
 - D. その他への応用
 - a. 自然科学, b. 社会科学, c. 人文科学, d. 障害者補助, e. その他
- IV. 申込方法
 - 1. 発表を計画された時

本号みどりのページ掲載の「全国大会講演発表用原稿用紙等請求書」に必要事項を記入して申込むこと。
 - 2. 講演論文を提出される時

講演論文（本原稿）および講演発表申込書を添えて申込むこと。

なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。
- V. 申込件数
 - 1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
 - 2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。また、別紙にて標題、発表分野を明記し、申込書と原稿をまとめて送付すること。
- VI. 申込料金
 - 1. 1件につき、1ページ論文は**6,000円**、2ページ論文は**7,000円**です。
 - 2. 講演申込書、論文等を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。
- VII. 論文提出

1. 論文は、7月10日(月)(必着)までに提出してください。
2. 論文は日本語または英語とします。
3. 論文抄録を「学会発表データベース(第一系)、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. 論文提出後の訂正は原則としてできません。
ただし、やむを得ない事情で訂正(本文の訂正に限ります)をしたい場合は、8月16日(水)一日(午前9時から午後5時まで)に限り、学会事務局2階にて訂正を受付けます。なお、郵便、電話等による訂正はできませんのでご注意ください。

VIII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会(プログラム編成委員会)が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの(極端な商品名の引用には注意する)。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの(次回への応募をお薦めします)。

IX. 論文集の配布

発表者には大会当日受付けにて、論文集全冊をお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間とします(都合により13分間のセッションもあります)。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理(読)は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

(社)情報処理学会 全国大会係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505



第 39 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

- 1. 発表を希望する者は氏名、住所、請求部数を記入して申込むこと、返送用宛名用紙にも同様に記入のこと。
- 2. 原稿用紙等の送料として 1 組希望の場合は郵便切手 175 円、2 組以上の場合は 1 組増すごとに 75 円添付のこと。
- 3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと。
- 4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください。
- 5. 返信用封筒はいりません。

氏 名 _____ Tel. _____

住 所 _____

請求部数 1 ページ発表…… _____ 組請求します。

2 ページ発表…… _____ 組請求します。

(切り取らずにお申込みください)

情報処理学会
第 39 回 全国大会
原稿用紙在中

—

(氏名)

(住所)

1 ページ発表 組

2 ページ発表 組

殿

平成元年度第 31 回 通常総会の開催について

平成元年度通常総会を下記によって開催いたします。ぜひご出席ください。

なお、総会の案内状は、正会員各位に別途郵送いたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時 平成元年 5 月 18 日 (木) 16:00~17:30

会 場 機械振興会館ホール (地下 2 階)

- 総会次第
1. 会長のあいさつ
 2. 昭和 63 年度事業報告および決算報告
 3. 平成元年度事業計画および予算審議
 4. 昭和 63 年度功績賞の発表と表彰
 5. 昭和 63 年度論文賞の発表と表彰
 6. 名誉会員の推挙
 7. 新役員の選定
 8. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ (無料) を行います (会場 6 階 67 号室)。会員が一堂に会し、直接にお話していただける得難い機会ですので、皆さまのご出席をお待ちしております。

情報処理学会創立 30 周年記念事業賛助金の募集について

当学会はご存知のとおり、昭和 35 年 4 月 22 日に創立され、来年は創立 30 周年を迎えるに到りました。

前号巻頭で詳細にお知らせしたとおり、30 周年を記念して国際会議および記念全国大会の開催、記念論文の公募、記念出版、情報処理学会“未来像”の策定、ならびに記念祝典等の事業を計画、推進しております。

つきましては、会員各位が前記事業に積極的にご参加いただくとともに、事業運営に必要な経費 2 億 3,000 万円の一部 (目標 1,500 万円) につきご賛助を賜りたく、下記により賛助金を募集いたしますのでご協力をお願いいたします。

なお、ご賛同の方の金額・氏名は本誌本会記事欄にて報告いたします。

記

賛助金募集額 1 口 1,000 円 何口でも可

送 金 方 法 本号巻末綴込の専用郵便振込用紙をご利用ください。

募 集 期 間 平成元年 4 月~平成 2 年 3 月、なるべく早めにご送金ください。

学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)

年度の終りから始めにかけては異動期で、会員の住所や所属の変更が殺到いたします。事務処理の誤りを防ぎ能率化するため、勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙 (本号末尾に添付) にて氏名、会員番号を付し、早速にご連絡ください。なお、異動の受付は毎月 20 日に締切り、翌月号から変更いたします。21 日以降受付分の変更は翌々月号からとなります。

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員（正会員、学生会員、海外会員）であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 1989 年 8 月 31 日

エ. 送付先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

(社)情報処理学会事務局 「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表 彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. そ の 他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

「コンピュータ通信ワークショップ (JWCC: Joint Workshop on Computer Communications)」の論文募集

マルチメディア通信と分散処理研究会では、コンピュータ通信、分散処理等について、海外からの研究者も含めて、幅広く議論を行うために、下記の要項でワークショップを開催いたします。奮って、論文を投稿してください。

日 時 1989年7月13日(木)～15日(土)

場 所 東京大学工学部講堂

トピックス コンピュータ・ネットワーク (LAN/MAN/WAN), OSI, 分散処理, 分散型データベースシステム, マルチメディア通信, 学術ネットワーク, ネットワーク管理とセキュリティ等

実施方法 (1) 発表論文は、英文とし、公募します。発表も英語で行います。

(2) 応募される場合は、アブストラクト(英文200語程度)を5月10日までに提出してください。

本論文は、A4判で10ページ以内で、カメラレディなものを6月15日までに提出してください。

論文は、郵送に加えて、電子メールが利用できます。

(3) 国内の研究者に加えて、海外からの参加もあります。

(4) 参加費用は、以下のとおりです。

参加費用 20,000円(会議参加) 30,000円(会議参加及び宿泊)

10,000円(学生の会議参加)

論文送付先 113 文京区弥生 2-11-16 東京大学大型計算機センター 石田 晴久

Tel. 03 (812) 2111 (内 2731) (FAX) 03 (814) 7279

(E-Mail) (国内) ishida@u-tokyo. junet

(国際) ishida%u-tokyo. junet%relay. cs. net

* 参加申し込み等については、今後本欄でお知らせいたします。

国際会議「ARCE」論文募集

教育におけるコンピュータ利用の新しい方法

International Conference on Advanced Research on Computers in Education

主 催 (社)情報処理学会 (IPSJ), IFIP/TC 3/W

協 賛 コンピュータ教育開発センター, 人工知能学会, 電子情報通信学会, CAI 学会

会 期 1990年7月18日～20日

場 所 東 京

主 旨 近年、教育におけるコンピュータの役割はいっそう重要性を増してきている。知識情報処理や認知科学の分野では、早くから教育への応用に関する研究が行われており、実用化に向けての期待も高まっている。そこで、1990年7月9日～13日にシドニー(オーストラリア)で第5回教育とコンピュータ国際会議(WCCE/90)のポストアクティビティとして、東京で教育におけるコンピュータの知的利用技術に関する国際会議を下記のテーマで開催します。

新しい教育環境 学習者のモデリング 教育システムの知識表現 指導方略 教育システムの知識獲得 定性的シミュレーション 知的教授システムの基礎理論 対話技法 知的

教授システムの構成論 マン・マシン・インタフェース 知的教授システムの利用経験
教育システムにおける機械学習 誤り原因同定

- 主な委員** 組織委員長 福村 晃夫 (中京大学)
プログラム委員長 大槻 説乎 (九州工業大学)
出版委員長 Robert Lewis (University of Lancaster)
実行委員長 伊藤 紘二 (東京理科大学)
- 投稿要領** A4 用紙に 12 pt ダブルスペースでタイプして、図表を含めて 10~20 ページの範囲内の英語論文のコピーを 4 部お送りください。なお、100~200 語のアブストラクトを添付し、主旨に記載されたテーマの中から最も関連の深いものを 1 つ指定してください。
- 論文提出先** 九州工業大学知能情報工学科 大槻説乎
820 飯塚市大字川津 680-4 Tel. 0948 (28) 5551 (内) 207, FAX 0948 (28) 5582
- 期 日** 論文締切: 1989 年 11 月 15 日 採録通知: 1990 年 2 月 1 日
最終論文原稿締切: 1990 年 4 月 1 日

集中研究集会「自然対象物のモデリングと表現技術」論文募集

グラフィクスと CAD 研究会では、研究者・技術者相互間における質の高い集中的な討議と情報交換を目的とする活動として、標記集中研究集会を企画しました。この集会は、選択されたテーマについて原則として参加者全員が発表と討論を集中的に行い、そのテーマについての結論あるいは見通しを得るために開くものです。今回はテーマとして「自然対象物のモデリングと表現技術」を選びました。

コンピュータグラフィクスの技術が発展するとともに、表現しようとするものがより複雑なものへと変わってきました。本研究会の発表においても、機械部品の曲面形状表示、山や樹木、岩石やそのひびの表示、透明物体、たとえばガラスやしゃぼんだまのリアルな表現、天空の光のシミュレーション表示などが報告されています。これらのうちから自然対象物に注目し、本集中研究集会を今までの研究をまとめるとともに、最新の研究発表の場にしたいと思います。自然対象物としては、木、草、山、石、水、炎、煙、もや、光、布、皮、動物などがあげられます。多くの方の参加を希望します。奮ってご応募ください。

記

- 日 時** 1989 年 8 月 17 日 (木) 午後 1 時から午後 6 時
8 月 18 日 (金) 午前 9 時から午後 5 時
- 会 場** 浜名湖保養所浜名荘 (予定)
(新幹線浜松、豊橋乗換、東海道線で弁天島駅下車)
- 申込締切** 1989 年 5 月 15 日 (月)
- 申込方法** 研究会発表申込用紙を利用し、学会へ申込む。
- 原稿締切** 1989 年 7 月 15 日 (土)
(各自で参加予定人数分の部数を作成し、学会へ送付する)
- 参加費** 12,000 円
- 参加者数** 25 名程度に限定する。(原則として、全員が発表をおこなう)
- 問合せ先** 担当委員 中嶋 正之 東京工業大学情報工学研究施設 045 (922) 1111 (2081)
近藤 邦雄 東京工芸大学電子工学科 0462 (41) 0454 (187)
主 査 川合 慧 東京大学教養学部情報図学科 03 (467) 1171 (444)

「学習のパラダイムとその応用」シンポジウム論文募集

「知識工学と人工知能研究会」では、「学習のパラダイムとその応用シンポジウム」を開催いたします。本シンポジウムでは、記号処理、ニューラルネット、エキスパートシステム等のさまざまなドメインでの学習の問題をとおり、それらのドメインを越えた、一般的学習の問題点、将来像を浮き彫りにすることを目的としています。そのため、現在の各ドメインでの学習の話題のほか、新しいドメインを探る話題等を中心に論文を募集します。奮って論文をお寄せください。

日 時 1989年11月6日(月), 7日(火)

場 所 機械振興会館大ホール (東京都港区芝公園)

トピックス ●記号処理による学習

●ニューラルネットによる学習

●エキスパートシステムでの学習 (知識獲得)

●記号による学習とニューラルネットによる学習の比較, 融合

●類推

●学習におけるドメイン情報の利用

●ドメインを越えた学習のパラダイムに向けて

実施方法

(1) 発表論文については、審査制とする。

(2) 応募論文は、アブストラクトを含めるものとし、和文 (A 4判で10枚以内) または、英文 (A 4判ダブルスペースで10枚以内) とする。ただし、英文論文には、別に和文アブストラクトを添付のこと。

(3) スケジュールは次のとおりとする。

●論文締切 7月7日 (金)

●受理通知 8月10日 (木)

●最終論文 9月30日 (土)

応募される方は、論文とコピー2部を下記へご送付ください。

送付先

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 「学習のパラダイムとその応用」シンポジウム係

Tel. 03 (505) 0505, FAX 03 (584) 7925

問合せ先

305 つくば市梅園 1-1-4 電総研・認知科学研究室

諏訪 基 (Tel. 0298 (54) 5460, FAX 0298 (52) 0865)

~~~~~

## 「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム論文募集

現在、次世代データベースシステム技術の研究開発が国内外において急速に活発化しており、特に、応用分野の広がりにもともなう高機能化・データベース・モデリング能力の高度化・マルチメディア情報の扱い・ハイパーメディアとデータベースの結合・プログラミング言語や演繹機能との融合などという立場から、種々の研究開発が行われている。

本シンポジウムでは、次世代データベースシステムに関連する基礎的な問題から応用事例にいたるまでの先鋭的な論文を募集し、次世代データベースシステムの今後の方向や問題点などを討論する場としたい。特に、今年度は、同時期に京都で開催される DOOD '89 (第 1 回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議) に引続いて本シンポジウムを行うことにより、国際交流を深める場としたい。

**日 時** 1989 年 (平成元年) 12 月 7 日 (木), 8 日 (金)  
**場 所** 京都リサーチパーク, サイエンスセンタービル内会議場

**トピックス** 本年度は、主に、次世代データベース技術に関連する以下のようなトピックに焦点をあて、これに関する理論・システム開発・高度応用事例などの論文を募集します。なお、以下のトピック以外の論文投稿も受け付けます。

ハイパーメディア, 図形・画像・音声データベース, 視覚的操作言語,  
 文書処理・DTT とデータベース, 自然言語辞書, テキストデータベース,  
 データベース設計, ビジュアルインタフェース,  
 高度データモデル (意味データモデル, オブジェクト指向データモデルなど) データベースプログラミング言語, プログラミング言語との融合,  
 CAD/CAM/CIM データベース, CASE・ソフトウェア CAD 用データベース,  
 分散型データベース, データベースの並列処理・分散処理,  
 その他

- 実施方法**
- (1) 発表論文については審査制とする。
  - (2) 応募論文の形式は
    - (a) アブストラクトも含めて英文 5,000 語まで, または,
    - (b) 邦文 (9,000 字まで) で, 英文アブストラクトを付けたものとする。
  - (3) 発表は, 7 日は英語, 8 日は日本語による発表とする予定。
  - (4) 興味の高いテーマについてサーベイや招待講演を行う予定。
  - (5) スケジュールは次のとおりとする。
 

論文締切 8 月 31 日 (木)  
 採用決定 9 月 30 日 (土)  
 最終論文 11 月 4 日 (土)
  - (6) 応募論文はコピー 3 部を下記申し込み先へ送付のこと。

**申込み先** (社)情報処理学会 アドバンスト・データベース・システムシンポジウム係  
 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

### 関連行事の開催日程

12 月 4 ~ 6 日: 第 1 回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議 (京都リサーチパーク)

## 夏のシンポジウムのお知らせ

今年の夏のシンポジウムは「コンピュータネットワークのヒューマンウェア」のテーマでコンピュータネットワークにかかわる人間の問題を話題にとりあげることになりました。

日 時 7月24日(月) 午後～26日(水) 午前

場 所 国民宿舎 熱海ビレッジ (JR 来の宮駅 丹那トンネル入口上です。)

定 員 50名

参加費 20,000円

面白くてためになる発表を募集します。

話題の例: コンピュータネットワークの利用目的

コンピュータネットワークの文化、心理、慣習、風習、エチケット

コンピュータネットワークの管理体制とその問題点

コンピュータネットワークの構築苦労話

コンピュータ教育とネットワーク

ハッカー、ウィルス、ワーム など

発表希望の方は 題名、内容、発表者の氏名、所属、連絡先 (e-mail address も) を4月末までに情報処理学会シンポジウム係 (106 港区麻布台 2-4-2 保科ビル) までお送りください。

また、ただ発表を聞くだけの参加はそのむねを明記してお申し込みください。(参加費は発表してもしなくても同じですから、発表なさる方がお得です。)

シンポジウム委員会の幹事: 和田英一 (東大) wada@ccut, utyo, junet,

前野年紀 (東工大) tmaeno@cc, titech, junet,

ボランティアの幹事: 楠本 博之 (ETL) kusumoto@etl, junet,

村上健一郎 (NTT) murakami@ntt-20, ntt, junet

---

## 「DA シンポジウム '89」開催予告

情報処理学会 設計自動化研究会では、下記に従い DA シンポジウム '89 を開催いたします。本シンポジウムは、従来非公開で開催されていた夏期シンポジウムを、'88年より一般公開とし、より幅広く研究者相互の交流を図ることを主眼としております。つきましては、参加と発表の詳細を5月号本欄に掲載いたしますので、ご参照のうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます

### 記

期 日 平成元年9月7日(木)～9日(土)

場 所 西浦温泉 南風荘 (愛知県蒲郡市西浦町)

参加資格 特になし 人数約 100名

募集テーマ LSI, プリント板, 論理装置の設計手法, 設計支援システムに関するもの

問合せ先 243 厚木市旭町 4-14-1 ソニー(株)半導体事業本部設計技術部 井上 隆秀

Tel. 0462 (30) 5343, FAX 0462 (30) 5867

または,

570 守口市八雲中町 3-15 松下電器産業(株)半導体研究センター 羽山 繁

Tel. 06 (906) 4908, FAX 06 (906) 0177

## 「IFIP WG 10.2 AI 技術を使用した CAD システム・ ワーキング・コンファレンス」参加者募集

**名 称** IFIP WG 10.2 Working Conference on the CAD Systems Using AI Techniques  
**会 期** 1989 年 6 月 6 日 (火)～7 日 (水)  
**場 所** 東京大学 山上会館 (東京・本郷)  
**主 催** 国際情報処理連合 (IFIP) TC 10 および情報処理学会  
**協 賛** 電子情報通信学会および IEEE Computer Society  
**目 的** AI 技術を用いた CAD システムに関する研究発表と討論を通じて、大規模化、複雑化の著しいディジタル・システムあるいはこれを構成する VLSI の設計手法の展望を示す。

**プログラム** ・Keynote Address “At The Cross Roads: Looking Both Ways” T.J. Kowalski (ベル研)  
・Invited Speech “The Evolution of Knowledge-Based VLSI Design Tools—CMU Perspective”, R. A. Rutenber (CMU)  
・Regular Sessions: Expert System (“KRAFT: A Knowledge-Base for CAD”, “A Knowledge-Based Approach to Design Task”, “Expert Database Support for CAD Complex Objects”, “Synergism of AI and CAD”, “DRCA: An Expert System to Improve Signal Quality in Digital Networks”, “A Black-board Architecture to support Generation of Schematics for Design Automation”, “Interactive Refinement of Architecture Using Knowledge in Special-Purpose Circuit Design System”)

Logic Design (“CMOS Circuit Abstraction and Verification Using AI Techniques”, “Synthesizing Correct Logic Designs Using Formally Verified Design Heuristics”, “The Verification System of Data Path Using Temporal Logic Based Language: Tokio”, “Non-monotonic Reasoning in Digital Circuit Design”, “Layering Expertise in a Full-Range Hardware Synthesis System”, “Application of Equational Term Rewriting Techniques in Synthesis Systems: A Technology Independent Optimizer”, “An AI Tool for Reliable VLSI Synthesis”, “Redesign Mechanism for Logic Design Support System”)

Layout Design (“Modelling Layout Problem Solving in Logic”, “An Intelligent VLSI Leaf Cell Layout Placement”, “Performance Analysis of an AI-based Placement System”, “Towards a Domain Specific Shell for Design Rule Checking”, “Extraction of Logical Design Structure and Its Application to PWB Layout”, “KAT: Knowledge Aquisition Tool for PWB Layout Expert System”) Testing (“Testability Expertise and Test Planning from High Level Specification”, “Temporal Logic Based Test Generation for Sequential Circuits”, “A Planning Model for the Embedding Problem in Design for Testability”, “Formal Verification and Diagnosis of Digital Circuits Using a Propositional Theorem Prover”)

**公 用 語** 英 語

**参 加 費** (一般) 40,000 円 (資料代, レセプション費を含む)  
(学生) 30,000 円 ( “ )

**定 員** 100 名 (定員に達し次第締切, 早めにお申し込みください)

**申込・問い合わせ先**

(財)日本学会事務センター国際会議事務局 AI-CAD 会議事務局  
113 東京都文京区本郷 3-23-1 クロセピア本郷 2 階  
Tel. 03 (817) 5831 FAX 03 (817) 5838

## 「AI 技術を使用した CAD システム」講習会開催について

来る6月6, 7日開催の「IFIP Working Conference on the CAD Systems Using AI Techniques」(3月号本欄参照)出席のため来日の海外著名研究者による標記講習会を下記により開催いたします。多数の方々のご参加をお願いします。なお、参加申込書は3月号本欄にあります。

日 時 平成元年6月5日(月)9:30~17:00

場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)

参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 1,500 円

申込締切 平成元年5月26日(金)(定員150名に達し次第, 締切ります)

### ~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

1. (9:30~10:00)

AI Concepts and Definitions

Ted Kowalski (AT&T Bell Lab.)

- Definitions of AI and KBES
- Some available systems

2. (10:00~12:00)

AI Applications to System Design

Ted Kowalski

- System specification  
(10:45~11:00) 休憩
- Design decomposition
- Implementation

—— 昼 食 (12:00~13:00) ——

3. (13:00~14:45)

AI Applications to Physical Design

Rostam Joobani (Trimeter Tech. Corp.)

- Placement and routing definitions
- Algorithmic approaches
- Blackboard systems
- Knowledge-based approach to routing

—— 休 憩 (14:45~15:00) ——

4. (15:00~16:45)

AI Applications to Testing

Vishwani Agrawal (AT&T Bell Lab.)

- Design for testability
- Test generation
- Diagnosis

5. (16:45~17:00)

Discussion

「AI 技術を使用した CAD システム」講習会開催について

来る6月6,7日開催の「IFIP Working Conference on the CAD Systems Using AI Techniques」(本号本欄参照)出席のため来日の海外著名研究者による標記講習会を下記により開催いたします。多数の方々のご参加をお願いします。

記

日 時 平成元年6月5日(月) 9:30~17:00  
場 所 機械振興会館ホール(地下2階)  
テ ー マ AI の概念と定義, システム設計への AI の応用, 実装設計への AI の応用, テストへの AI の応用(プログラムは本号参照)  
講 師 Dr. Ted Kowalski (AT & T Bell Lab.)  
Dr. Rostam Joobbani (Trimeter Tech. Corp.)  
Dr. Vishwani Agrawal (AT & T Bell Lab.)  
参 加 費 会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 1,500 円  
申込期限 平成元年5月26日(金)(定員150名に達し次第, 締切ります)

キ リ ト リ 線

「AI 技術を使用した CAD システム」講習会

参 加 申 込 書

平成元年 月 日

申込書 氏名 \_\_\_\_\_ 会員 No. \_\_\_\_\_

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 \_\_\_\_\_

Tel. \_\_\_\_\_

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費(該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円      非会員 15,000 円      学生会員 1,500 円

○送金方法

\_\_\_\_\_円を \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日送金します(金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

- a. 現金書留(送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)  
b. 銀行振込(いずれも普通預金口座)

|                                |         |           |         |
|--------------------------------|---------|-----------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店                      | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部                     | 0000608 | 三井銀行本店    | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部                      | 10899   | 三和銀行東京公務部 | 21409   |
| 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |         |           |         |

請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書      通, 見積書      通, 納品書      通  
請求先 \_\_\_\_\_

(注) 申込書は1枚1人としてください(この用紙のコピーで可)

## 新年度にあたって（お願い）

### ——会費・購読費の納入、新会員勧誘など——

新年度にあたって、会員の皆さまに会費等の納入のお願いとともに、つぎの点につきご確認いただき、あわせてご協力のほどお願いいたします。

#### （１）平成元年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

新年度から会費を改定いたしました。４月下旬に会費および購読費の納付書（郵便振替用紙）を送付いたしますので、なるべく早急にご納入ください。また、預金口座振替の会員は**５月 29 日（月）**に自動振替いたしますので、ご留意ください。

なお、平成２年度会費から預金口座自動振替を希望する会員（正会員に限る）は、所定の**預金口座振替依頼書**（平成元年度会費払込依頼書に同封）によりお申込みください。

#### （２）大学学部卒業予定の学生会員の会費

本年３月に大学学部卒業予定の学生会員には、平成元年度会費は正会員（9,600 円）として請求いたします。大学院修士課程に進まれた方は、学生会員として継続できますので、会員番号を付し、大学院名・研究科名・専攻名、修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

#### （３）退 会

書面（様式任意、はがき可）にてお申出ください。なお、63 年度会費が未納の場合には、昨年４月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

また、63 年度会費未納者には、これまで再三にわたり請求いたしております。納付いただけない場合には、本学会から除名することがありますので、ご承知ください。

#### （４）学会誌の送本先変更

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（４月号、10月号に添付）にて会員番号を付し、早速にご連絡ください。

#### （５）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は本欄添付の申込書を使用して、お申込みください。

### 新入会員勧誘のお願い

４月は入会に絶好のチャンスです。３月号末尾綴込みの入会申込書で、入会をご勧誘ください。なお、会費等は下記のとおり改定されましたので、ご留意ください。

|           |         |
|-----------|---------|
| 正 会 員 費   | 9,600円  |
| 賛助会員費（１口） | 50,000円 |
| 学生会員費     | 4,800円  |
| 海外会員費     | 5,700円  |
| 正会員入会金    | 2,000円  |
| 学生会員入会金   | 不 要     |

論文誌，欧文誌の購読のおすすめ

「論文誌」（月刊）および「欧文誌」（季刊）は有料頒布です。まだ購読されていない会員は新年度から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方は本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」（月刊）および欧文誌 “Journal of INFORMATION PROCESSING”（略称 JIP・季刊）は下記のとおり，有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書（コピーにて可）にて，お申込みください。郵便振替口座番号，取扱銀行，送金先等は 3 月号 274 ページにあります。

| 年間購読料 | 会 員     | 非 会 員               |
|-------|---------|---------------------|
| 論 文 誌 | 4,500 円 | 7,800 円             |
| 欧 文 誌 | 3,000 円 | 6,000 円（海外 7,000 円） |

平成 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申込みます。（該当欄を○で囲む） 会員 No. \_\_\_\_\_

1. 氏 名 \_\_\_\_\_ 会員（正，学生，賛助）・非会員

連絡先（〒 \_\_\_\_\_）

Tel. \_\_\_\_\_

送本先（〒 \_\_\_\_\_）

注）会員には学会誌の送付先に送本いたしますので，送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌（申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入）

a. 情報処理学会論文誌（ \_\_\_\_\_ 巻 \_\_\_\_\_ 号から送本希望）

b. 欧文誌 “Journal of INFORMATION PROCESSING”（ \_\_\_\_\_ 巻 \_\_\_\_\_ 号から送本希望）

3. 送金の方法

¥ \_\_\_\_\_ 也をつぎによって送金いたします。（送金月日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日）

a. 現金書留    b. 郵便振替    c. 銀行振込（ \_\_\_\_\_ 銀行宛）

4. その他（学会事務局への連絡事項）

## 支 部 だ よ り

## 平成元年度支部総会について

各支部の通常総会が下記のとおり開催されますので、ぜひご出席ください。なお、各支部総会の案内状は、支部内の正会員各位に別途郵送されますが、ご欠席の場合には必ず委任状をご返送ください。

| 支 部         | 日                | 時      | 会 場                                                | 講 演 会                                              |
|-------------|------------------|--------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 北 海 道       | 4月27日(木)         | 14:00～ | 北海道大学工学部情報工学科<br>会議室                               | 15:00～17:00<br>LANDにおけるネットワー<br>ク環境と研究<br>山本 強(北大) |
| 東 北         | 5月11日(木)         | 15:00～ | 東北大学電気通信研究所<br>大会議室                                | 16:00～<br>データベース技術の現状と<br>将来<br>増永良文(情報大)          |
| 中 部         | 5月10日(水)         | 14:00～ | 愛知厚生年金会館(名古屋市<br>千種区池下町 2-63 地下鉄東<br>山線「池下」下車, 1分) | 15:00～16:30<br>(演題, 講師未定)                          |
| 関 西         | 5月19日(金)         |        | (詳細は支部会員に別途連絡<br>します)                              |                                                    |
| 中 国         | 5月12日(金)         | 14:30～ | 中国電力1号館 3-1 会議室<br>(広島市中区小町 4-33)                  | 15:00～16:30<br>今後のコンピュータアーキ<br>テクチャ<br>弓場敏嗣(電総研)   |
| 四 国<br>(新設) | 設立総会<br>4月15日(土) | 14:00～ | 愛媛共済会館(松山市三番町<br>5-13-1)<br>(詳細は前号本欄参照)            | 15:00～16:00<br>地域振興とソフトウェア<br>会長 大野 豊              |
| 九 州         | 5月12日(金)         | 13:30～ | 九州大学大型計算機センター<br>多目的講習室(3階)                        | 14:30～16:00<br>(演題未定)<br>加納省吾(北九州大)                |

## 情報処理学会東北支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日** 平成元年 8 月 24 日(木), 25 日(金)  
24 日(木) 午前: 一般講演・技術報告  
午後: 一般講演・技術報告, 特別講演 夜: 懇親会  
25 日(金) 一般講演・技術報告  
24, 25 日の両日 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)
- 会 場** 日本大学工学部(福島県郡山市田村町徳定字中河原 1 番地, JR 郡山駅より, 福島交通バス日大または徳定行き 日大下車)
- 講演内容** 一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表  
技術報告 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等, 特に現場に直結した実験研究の発表  
講演者は, 主催学会会員に限る. 連名の場合は会員外を含むことも差支えない. 講演時間は, 1 件 15 分以内(討論時間を含む)とする.
- 申込方法** (1) 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共に渡す. 郵送希望の場合は 1 部 175 円(2 部以上の場合は 1 部増すごとに 75 円増)の郵送料を添えること.  
(2) 一般講演及び技術報告の予稿集はオフセット印刷とするので, 必ず所定の原稿用紙を使用すること.  
(3) 申込件数の制限は 1 名 2 件までとする. ただし連名は差支えない. 内容が著しく不適当と思われる場合講演を制限する場合がある.  
(4) 発表者は講演申込と同時に必ず講演申込金として 1 件につき 3,000 円を添えて申込むこと.  
(論文集代, 別刷 50 部代を含む)  
(5) OHP を講演各室に準備する.(希望によりスライドも可)
- 申込・原稿締切日** 7 月 7 日(金) 必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする)
- 論 文 集** 発表者には, 大会当日受付にて配布する. 購入希望者は, 所要部数を早めに申込むこと(1 部 2,500 円, 郵送希望の場合は, 郵送料 1 部 510 円)
- 申込・問合せ先** 980 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内 電気関係学会東北支部連合事務局  
Tel. 022 (222) 1800 (内 4321) 庄司
- 懇 親 会** 8 月 24 日(木) 18:00~ 場所 郡山市内 会費 3,000 円  
申込は当日大会会場で受付けます.
- 宿 泊** とくに幹施しない.

## 平成元年度各種行事の予定について

4月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご留意ください。

| 行 事                    | 期 日                    | 会 場    |
|------------------------|------------------------|--------|
| 第 31 回 通常総会            | 5・18 (木)               | 機械振興会館 |
| 第 39 回 全国大会            | 10・16 (月)～18 (水)       | 九州工業大学 |
| 第 40 回 全国大会            | 平成 2 年 3・13 (火)～16 (金) | 早大理工学部 |
| 平成元年電気・情報関連学会連合大会 (共催) | 平成元年 9・5 (火)～7 (木)     | 早大理工学部 |

## (シンポジウム)

|                                             |                  |                         |
|---------------------------------------------|------------------|-------------------------|
| コンピュータ通信ワークショップ                             | 7・13 (木)～15 (土)  | 東大工学部講堂                 |
| 1989 年夏のシンポジウム                              | 7・24 (月)～26 (火)  | 熱海ビレッジ                  |
| 第 22 回 情報科学若手の会                             | (未 定)            | (未 定)                   |
| ドメインを超えたパラダイム                               | 11・6 (月)～7 (火)   | 機械振興会館                  |
| マルチメディア通信と分散処理                              | 11・16 (木)        | "                       |
| 自然言語処理技術の最近の動向                              | 11・16 (木)～17 (金) | ATR                     |
| グラフィクスと CAD                                 | 11・21 (火)～22 (水) | 機械振興会館                  |
| コンピュータ・システム                                 | 11・28 (火)～29 (水) | "                       |
| アドバンスド・データベース・システム                          | 12・7 (木)～8 (金)   | 京都リサーチパーク<br>サイエンスセンタビル |
| 利用者指向の情報システム                                | 12・8 (金)～9 (土)   | 東大山上会館                  |
| 教育における新しい方法                                 | 12・14 (木)～15 (金) | 機械振興会館                  |
| 第 31 回 プログラミング・シンポジウム 平成 2 年 1・9 (火)～11 (木) |                  | 箱根・ホテル小涌園               |

## (講習会)

|                     |          |        |
|---------------------|----------|--------|
| AI 技術を使用した CAD システム | 6・5 (月)  | 機械振興会館 |
| ステレオグラフィクスの基礎から応用まで | 9・29 (金) | "      |

## (共 催)

|                    |                        |           |
|--------------------|------------------------|-----------|
| 第 20 回 画像工学コンファレンス | 12・12 (火)～14 (木)       | ABC 会館ホール |
| 1990 情報学シンポジウム     | 平成 2 年 1・17 (水)～18 (木) | 日本学術会議講堂  |

## (国際会議共催)

|                                                                          |                      |                         |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------|-------------------------|
| IFIP TC-2 Working Conf. on Visual Database Systems                       | 1989 年 4・3 (月)～7 (金) | 東大山上会館                  |
| Int'l. Symp. on Database Systems for Advanced Applications               | 4・10 (月)～12 (水)      | Seoul・Korea             |
| IFIP WG 10.2 Working Conf. on the CAD Systems Using AI Techniques        | 6・4 (日)～5 (月)        | 機械振興会館                  |
| 3rd. Int'l. Conf. on Computer Applications in Production and Engineering | 10・2 (月)～5 (木)       | 京王プラザホテル                |
| 1st. Int'l. Conf. on Deducate and Object-Oriented Database               | 12・4 (月)～6 (水)       | 京都リサーチパーク<br>サイエンスセンタビル |

## 「情報処理ハンドブック」の予約申込について

前号本欄でお知らせしたとおり、面目を一新した新版の「情報処理ハンドブック（B 5判，1,620 ページ）」を、来る5月末に発行いたします。

目次は次のとおりです。詳細は巻末綴込のパンフレットを参照ください。

計算の理論，システム解析の基礎，数値解析，ハードウェア，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，データ工学，コンピュータネットワーク，プログラミングの基礎，プログラミング言語の記述と処理系，ソフトウェア工学，人工知能，高水準インタフェース技術，システム論，応用システム，教育，規格と資料。  
つきましては、会員に限り下記により予約特価で受付けますので、早目にお申込みください。なお、送本は6月末頃となる見込みですが、ご了承ください。

### 記

|      |                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定 価  | 33,990 円（本体 33,000 円）                                                                                                                                 |
| 予約特価 | 26,800 円（送料込）                                                                                                                                         |
| 申込締切 | 5月31日（6月1日以降は受付けません。6月以降の会員購入価格は5月号本欄にてお知らせします。）                                                                                                      |
| 申込方法 | 巻末添付の予約申込専用郵便振替用紙にてご送金ください。なお、現金または銀行送金の場合にも、必ず上記振替用紙を使用し、下記あて同時にご送付ください。また、請求書が必要な場合は、あらかじめ書面によりお申出ください。ただし、5月末日までに入金いただけるものだけに限り受付けますので、期日にご留意ください。 |
| 問合せ先 | 情報処理学会「情報処理ハンドブック」係 Tel. 03 (505) 0505<br>なお、申込後に送本先を変更する場合は、はがきにて早急にご連絡ください。                                                                         |

## 本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内\*

### 第 38 回 産業用ロボット利用技術講習会

平成元年4月20日（木）～21日（金） 名古屋市中小企業振興会館  
システムと制御チュートリアル講座イーブニングスクール「システム同定と信号処理入門」

平成元年5月23日（火）、26日（金）、30日（火）、6月2日（金）、6日（火） 大阪府立労働センター

### 第 2 回 テレマティクスシンポジウム

平成元年6月1日（木） 東京・機械振興会館

### セミナー「ニューラル／ファジィ 応用の可能性を探る」

平成元年6月5日（月）～6日（火） 東京・ダイヤモンド社

平成元年6月13日（火）～14日（水） 大阪・なにわ会館

### ワークショップ「外観検査の自動化」

平成元年6月16日（金） 東京電機大学工学部

### 89/2 高分子可能性講座

平成元年7月4日（火）～5日（水） 東京・石垣記念ホール

### 第 12 回 工業教育研究講演会

平成元年10月21日（土） 東京・上智大学図書館

\* 詳細は本号会議案内欄参照